

と頼母しい人、山崎さんとは切つても切れない仲、又此の異動で土木局道路課長には愛知縣警察部長の田中省吾氏、文書課長には地方局行政課長の古井喜實氏、地方局振興課長には福岡縣總務部長の村田五郎氏、地方局行政課長には滋賀縣警察部長の齋藤昇氏、計畫局防空課長には静岡縣警察部長の西廣忠雄氏、警保局經濟保安課長には圖書課長の

赤羽穰氏がそれぞれ就任した何れも適材適所といふべきである。名物男の龜山防空課長は久しぶりで愛知縣警察部長に轉出した若干寂寞を感じることもなつた。今回の大異動に就て厚生省方面に相當不滿の聲が強いやうに噂されてゐるが異動の真相が判明すれば其の不滿は自然に解消することであらう。

我等の道路課長腹で行く田中君

路 傍 山 人

今度の地方官大異動で、我等の道路課長に田中省吾君が愛知縣警察部長から榮轉して來た。從來の經歷は殆んど警察畑ばかりで、凡そ土木局とは關係が薄い様に見えるが決してさうではない。田中君が大正十三年京大を卒業、直ちに内務屬となつたが、當時道路課で一年餘り見習をして居

つたから、大いに關係がある譯だ、田中君としても生れ故郷に錦を着て歸つた様なもので、定めし思出の深いものがあるであらう。田中君自身も……見習當時一處に仕事したり色々指導してくれた人々が居られるので非常に心強い當時勉強した道路法や河川法もあまり變つて居らぬから多

少勉強したらやれるだらふ……と話してゐる、身長は五尺八寸八分の雲突くような大男で、双葉山より三分大きいと威張つてゐるが、さてその目方はといふと双葉山の半分よりないとの事だから、この方ではあまり威張られないだらう、極めて明朗な性格で圓轉滑達、頭もよく腹も据つてゐる、田中君は『あまり頭がよくない方がよい、人間は腹で行かねばならぬものだ』と自分でいふてゐる位で、従來の仕事振りを見ると、最も危険性のある警察關係の仕事であるにも拘らず『ヨシ来た』と一旦腹をきめると斷乎としてこれを實行し、部下に對しては『もし失敗したら俺が責任を負ふからやれ』と激勵するので、部下も全力を擧げて仕事に當るから決して失敗する事はない、だから何處でも非常に評判がよい、獨り仕事の事ばかりでなく、部下は勿論友人や知人に對し、就職や子弟の教育、結婚等親身も及ばぬ程親切に世話をしてくれる、だからこうして世話になつた人々は慈父のように親つてゐる明治二十九年岐阜縣生れで今年四十五歳の働盛り、大正五年岐阜師範學校卒業、同九

年東京高等師範學校文科第一部を卒業、翌十一年同校研究科を卒業したが方針を變更して京都大學に入學、十二年高文パス、十三年卒業直ちに内務省入りをした。東京高師在學中は當時やかましかつた高師の大學昇格運動に参加し、時の文部大臣三土忠造君を初め要路の人々に陳情して歩いた事もあつた。前記の様に内務省入りと共に土木局で一年餘り見習をしてゐたが、大正十四年十月地方警視長野縣特高課長となつた、當時伊那電鐵の大ストライキを鮮かに解決してその手腕を認められ、又十五年七月には彼の有名な長野縣下に於ける警察署廢止に絡む大騒擾事件に際しては治安維持の大任を負ひ縦横に手腕を發揮したものである。次いで同縣警務課長となつたが、手腕を認められて昭和二年六月大阪府警視特高課長に轉じたが異數の榮轉だと同僚から羨まれたものであつた。當時は左翼運動が盛んで、特に工場地帯の大阪地方では大小の勞働問題が頻發し、その取締に少なからず苦心したものであつたが、田中君は持前の『腹』で何れも鮮かな解決振りを見せた、共產黨事件で

は三、一五事件、四、一六事件、和歌浦事件などの大檢舉があり、労働問題では南海電鐵、市電争議等々の大事件を片つ端から解決してのけた。かくて大阪に居ること五年、昭和六年十二月内務事務官として本省に舞戻り、警保局保安課勤務、七年一月警務官に補せられた、左右兩翼を初め非合法、合法等の労働團體等あらゆる警察關係の事務に當り充分腕を磨いた。その間共産黨の大森ギヤング事件や熱海事件等の大檢舉にも關係して大いに成績を上げた。次いで昭和九年八月ベルリン駐在事務官を命ぜられ、十一年六月迄九二年間ナチに關するあらゆる問題をミツチリ勉強し歸朝に際しては歐米地方を廻つて研究を積み一層滔をつけ歸朝した、十一年九月千葉縣警察部長に榮進、九二年半在任したがその間前任者當時に起つた警察官の官紀問題の解決やら警察官の優遇問題等々を着々實行に移し『たよりになる警察部長』として縣民から非常に信頼された、十四年四月愛知縣警察部長に榮轉、在任一ヶ年の短期間ではあるが、労働報國運動の強化等の國策に順應する仕事を仕上

げて、今回の榮轉となつたものであるが、我等の道路課長として大いに期待をかけられてゐる。

